

晴れた日には出かけよう！
～まちのミリョクを再発見!!～

2

伝説の鳥「鳳凰」の舞う まつり

ほうおう



下平井には古くから伝わる民俗芸能の鳳凰の舞があります。



鳳凰の舞

鳳凰の舞は、江戸の要素を含む奴(やっこ)の舞と、上方の鳳凰の舞の二庭(ふたにわ)で構成される、全国的にもあまり類例のない貴重な民俗芸能です。

『下平井の鳳凰の舞』として昭和28年(1953)に都の無形民俗文化財に、平成18年(2006)には国の重要無形民俗文化財に指定されました。残念ながらはっきりした伝承由来の文献は残っていませんが、雨乞いや悪疫退散の舞として奉納されてきたそうです。

奴の舞は15人程の小学生たちが白扇と木刀を持ち、お囃子にのって舞いながら、大太鼓を中心に円陣をつくりまわります。その後、太鼓に向かってしゃがみ、一人ずつ「えっへん」ではじまり「ほほ敬って申す」で結ぶ台詞を述べていきます。鳳凰の舞は、鳳凰の冠を被った鳳凰役5人と、赤い頭巾を被った5人の総勢10人が、軍配を持ったリーダーの掛け声に合わせて、大太鼓の周りで勇壮に舞います。



奴の舞

かつては春日神社の祭礼に限らず、度々行われていましたが、明治頃に途絶えてしまいました。しかし、昭和初期に復活し、戦争で一時中断はしたものの、現在では下平井の地域住民で構成される保存会の手によって大切に伝承されています。

毎年、春日神社の秋祭りでは、氏子中数カ所で奉納演技をしています。そのため、毎年夏が終わる頃から会館に集まり練習を始めるそうです。かつて舞を演じた先輩たちが、今度は指導者として後継者の育成に励んでいます。

春日神社のお祭りは毎年9月29日に近い土日に行われます。同じ日に八幡神社のお祭りも行われ、合わせて平井のお祭りと呼ばれ親しまれています。



宿通りでの山車の競り合い

平井のお祭りには、鳳凰の舞以外にも、町指定有形民俗文化財の『加美町の山車』と『志茂町の山車』を含む5台の山車が繰り出し、それぞれの山車で町指定無形民俗文化財の『重松流祭り囃子』などが演奏されます。宿通りで行われる5台の山車による競り合いは圧巻で、祭りで最も盛り上がる場面です。

アクセス

春日神社へは「中平井」バス停下車、徒歩4分です。



目の出WALK (観光マップ)【L-7】

